

新年明けましておめでとうございます。

この度、平成24年1月1日付けをもって、あいち産業科学技術総合センター所長に就任いたしました。新年を迎えご挨拶を申し上げます。



去年は、知事の年頭所感にもありましたように、国内では、3月の東日本大震災、東京電力福島原子力発電所事故、超円高や海外においては、タイ洪水、欧州のユーロ危機など国内外にて激動、波乱の一年でございました。

今年は、世界経済として不安要素はあるものの、国内における震災復興は徐々に進み始めており、復興需要による国内経済の回復を期待したいところであります。

このような状況の中、日本の産業経済を支える愛知の責務としては、中小企業支援を始めとする県内経済の活性化であります。

愛知が持続的な成長を遂げていくには、「産業技術及び科学技術」の発展が不可欠であり、まさにこの「あいち産業科学技術総合センター」が次世代モノづくりの研究開発拠点として、その役割の一翼を担うものと考えております。

当センターは、平成3年度の科学技術交流センター計画からおよそ20年を経て、ようやく旧産業技術研究所（刈谷市、現在の「産業技術センター」）と統合して実現に至りました。来月14日に産学行政の共同研究施設としてオープンし、高度な計測分析機器による研究開発支援や共同研究開発プロジェクトの推進など本格的稼働をしてまいります。

また、来年度には、公益財団法人科学技術交流財団が運営するナノテクノロジーを用いた研究開発に不可欠な「中部シンクロトン光利用施設（仮称）」もオープンする予定で、当施設では、専門のコーディネータや技術者を配置し、計測・分析の支援や技術課題などのご相談にも応じてまいります。加えて、「知の拠点」での開発技術の成果を中小企業の皆様に普及することも併せて実施することとしております。

当然のことながら、従前からの中小企業の皆様からの相談や依頼業務、その中に含まれている課題の抽出、解決、それをフィードバックすることは、当センターの基盤業務であり、より一層の力を入れ、その役割を果たしてまいりたいと考えております。

当センターといたしましては、愛知の新しい技術のランドマークとして広くPRし、「中部シンクロトン光利用施設（仮称）」とともに認知度を向上させ、県内企業のみならず、近隣地域の企業の皆様にも広くご活用いただき、「世界と闘える愛知・名古屋」づくりの実現に寄与してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成24年1月

あいち産業科学技術総合センター
所 長 中 野 達 夫